

河原の自然観察ガイド

酒匂川の河原

河原



酒匂川は、堤防に囲まれた広い河原を持っています。栢山から飯
泉取水堰^{しゅすいげん}までは小石の多い河原で、それより下流は砂混じりの河原
です。そこでは多くの自然が観察できます。



河原の自然観察ガイドマップ

小田急「栢山駅」から東に行くと酒匂川です。河原において、石や植物、虫、鳥などをゆっくり観察しましょう。



行き方 小田急「栢山駅」下車・乗車

注意 流れの速いところには入らないようにしましょう。

河原の植物

河原の植物は大きく三つに分けることができます。第一は水中または水^{しず}辺、湿地を好んで生えるもの、第二は砂や小石が続く高温、乾燥のはげしい所に生えるもの、そして第三は、大雨で増水してもめ^{かんそう}ったに流されない安定した所に育つ植物です。これらの他に流れた植物、帰化植物の進出も見ることができます。



イヌコリヤナギ



タチヤナギ



オノエヤナギ

ヤナギの類は、河原に春を告げてくれます。酒匂川には7種類のヤナギが生育しています。イヌコリヤナギ、タチヤナギ、オノエヤナギ、その他ナガバカワヤナギ、シダレヤナギ、コゴメヤナギ、ウンリュウヤナギがあります。それぞれ葉や花のつくり、茎などの特徴^{ちよう}をもとに見分けることができます。



ヒエガエリ (5月)

小田原の各所の川べりや用水路の土手などによく見かけます。アシを小さくした姿です。



クズ （9月）

茎（ツル）は長く伸び、10m以上にもなります。秋の七草の一つです。



ノイバラ （5月）

河原でトゲが痛くてやっかいな植物ですが、花の頃の小さな白いバラの花は見事です。



カワラケツメイ （8月）

茎や葉をお茶の代用として使っていました。葉は、ネムノキの葉に似ています。



アレチウリ （9月）

とげとげした実をつけて、一面に広がる様子が最近目につくようになりました。



ネナシカズラ （10月）

全体に葉緑素はなく、つるから寄生根を出して寄生した植物からその養分を取ります。



キショウブ (5月)

水田などによく生育しています。ショウブはサトイモ科の植物で花は目立ちませんが、これはアヤメの仲間では花は黄色で目立ちます。



マメグンバイナズナ (5月)

実の形が軍配ぐんばいのような形をしているので、この名があります。小田原では、よく見かける帰化植物です。



ビロードモウズイカ (8月)

全体に白い毛を密生させ、ビロードのようで、大きいものは背丈せたけが2m近くになります。

最近増えてきた帰化植物です。



ツルマメ (9月)

茎は他のものにかみつき、細く長く伸びます。紅紫色の小さい花を咲かせます。まれに白花も見られます。



カワラナデシコ （7月）

あざ
鮮やかな色でよく目立ちます。全体のイメージはカーネーションに似ています。白花は、珍しいものです。秋の七草の一つです。



ムシトリナデシコ （5月）

そみつねぼ
河原をピンクに染めるほどたくさん咲き、虫が蜜を吸いにやってきます。茎に粘り気がありますが虫はつかまえません。



ミソハギ （5月）

湿った所に生育し、お盆の頃咲くので「ボンバナ」ともいいます。



メドハギ （5月）

河原にすうっと立った姿は目立ちます。夏に小さいうす黄色の花をつけます。



カワラハハコ (9月)

茎や葉が白い毛でおおわれています。花はハハコグサ(ハウコグサ)に似ています。



カワラヨモギ (9月)

若葉と生育した時の様子の違いに驚きます。若葉は銀白色でフサフサしています。



クコ (10月)

花はナスに似て、秋になると赤い実をつけます。薬草として用います。



イヌドクサ (5月)

トクサやスギナに似ています。茎の先端にツクシ状の穂をつけます。



アレチヌスビトハギ(9月)

花はきれいですが、実は服にベタベタくっつきます。急に増えてきました。



コガマ (8月)

水の多い所でよく見かけます。休耕田などに侵入してきます。



オギ (10月)

ススキに似ていますが河原で見られるのはオギです。湿地や水辺を好みます。



ススキ (10月)

オギに似ていますが株立ちするので、区別できます。別名オバナ(尾花)で、秋の七草の一つです。



マコモ (9月)

葉は長く幅広で背丈が1mにもなる大型イネ科の植物です。



アシ (9月)

アシは「悪し」につながるのでヨシということもあります。



ツルヨシ (10月)

アシに似ています。茎の下部は地面をはい、つるになります。



マツヨイグサ(6月) コマツヨイグサ(5月) アレチマツヨイグサ(8月)

マツヨイグサの仲間はあざやかな黄色の花をつけ、甘いにおいで蛾を誘います。夕方開き翌朝にはしばみ、花びらが赤く変わるものもあります。マツヨイグサを押しわけ今や世界中に広がる雑草の王様がアレチマツヨイグサです。さやの中の種の多さに驚きます。



セイトカアワダチソウ(10月)

大群落をつくり、黄色の花を咲かせます。秋の風物詩です。



アメリカセンダングサ(9月)

果実にトゲが2本あって、動物や人の衣服にくっつきます。

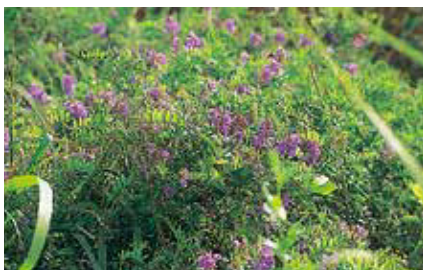


タコノアシ(9月)

花には花弁がなく、タコの足の吸盤のようです。



オオイヌタデ (9月)
土手や河原等でよく見られ、白い花を咲かせる株と、赤い花を咲かせる株があります。



ツルフジバカマ (8月)
紅紫色の花穂^{かすい}をつけます。花の色やつるの様子からこの名がつけられました。



ウォーターレタス (9月)
ボタンウキクサとも呼ばれます。もとは園芸種で、栽培したものが増えて野生化したものです。熱帯原産です。



ミズハコベ (5月)
水田や川等に水につかった状態で生育していますが、あまり多くは見られません。葉はハコベに似ていますが別の科の植物です。



ホテアオイ (9月)
花は淡紫色で、葉の柄がふくらみ^{はていさま}浮き袋になる様子は、布袋様のお腹に似ています。熱帯原産の帰化植物です。



クロモ (9月)

今ではオオカナダモやコカナダモにおされ少なくなっています。黒っぽく見えます。



オオカナダモ(9月)

アルゼンチン原産の植物でアメリカから輸入され日本全土に広がりました。一番多く見られます。



コカナダモ(11月)

実験用としてアメリカ北部から輸入され野生化したものです。



オオフサモ (9月)

酒匂川^{はんすい・ちん}の周辺の水路等に見られる半水沈性の植物です。葉は明るい緑で目立ちます。茎が水面に浮いて広がっていきます。



ササバモ (5月)

酒匂川^{はんすい・ちん}の流れの中でよく見ることができます。葉の形がササのように波うっています。夏に流れの上に花穂^{かすい}をつけ咲きます。



サンカクイ (9月)

酒匂川の河口の湿地に生育しています。茎が三角形なのでこの名があります。



クレソン (5月)

別名オランダガラシ、唐人ゼリともいいます。水辺の至る所に広がってきて他種を圧倒してきています。



オオブタクサ (9月)

背丈が3mにもなります。花粉症の原因になるので嫌われていますが繁殖力が強く各地に広がっています。



イチョウウキゴケ (9月)

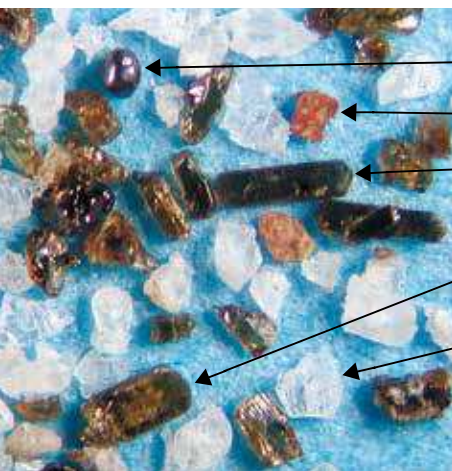
主に水面に浮き、まれに泥土上にも生育します。葉がイチョウに似ているので、この名があります。コケの一種です。

河原の石

酒匂川は、丹沢・足柄山地そして富士・箱根山の河川を集めて流れています。したがって河原では、丹沢山地の大部分を作る凝灰岩類や深成岩の石英閃緑岩（トータル岩）、その周辺部に分布する変成岩のホルンフェルスや結晶片岩などの礫が観察できます。また、それに混じって箱根山の安山岩や富士山の玄武岩の礫もたくさん観察することができます。早川は、箱根火山を流れるので外輪山・中央火口丘の安山岩類や、箱根火山ができる前の早川凝灰角礫岩が観察できます。

おおまかにいうと、これらの川でごま塩の石を見つけたら石英閃緑岩（トータル岩）、黒っぽいのは玄武岩、灰色っぽくて白い長石や緑黒色のキ石などがぼつぼつ見えるのは安山岩、緑色に見えるのは凝灰岩類。縞模様の入っているのは結晶片岩。黒っぽくてつるつるしているのはホルンフェルスです。

火山灰や軽石が積もってできたローム層の土を何度も洗って、残った小さな粒を双眼実体顕微鏡などで見てみましょう。色々な鉱物がたくさん観察できます。



磁鉄鉱

岩片

斜方輝石

単斜輝石

斜長石

箱根山のローム層の鉱物

富士火山にはカンラン石が多く含まれています。

箱根火山にはカンラン石がほとんどなく、キ石が多く含まれています。

箱根・富士火山ともにチョウ石や磁鉄鉱が多く観察できます。



せきえいせんりよくがん

石英閃緑岩（トータル岩）

白い結晶（チョウ石）と短冊状の黒い結晶（カクセン石）がごま塩状に見えるのが特徴です。マグマが丹沢の地下深くでゆっくりと冷えて固まってできた深成岩です。＜丹沢山地の石＞



あんざんがん

安山岩

灰色っぽい色をしています。箱根火山の多くがこの岩石です。マグマが地表で急激に冷やされてできた火山岩で細かい結晶の部分（石基）と地下で早めにできたやや大きめの結晶（斑晶）が入った斑状組織をしています。斑晶のうち黒っぽいのはキ石、白いのはチョウ石です。＜箱根火山の石＞



げんぶがん

玄武岩

黒っぽい色をしています。たくさんの穴があいているものもあります。流れやすい溶岩が地表で急に冷やされ固まった火山岩で斑状組織をしています。穴はその時にガスが抜け出てきたものです。斑晶にはアメ色のカンラン石が見られます。富士火山はほとんどがこの岩石です。＜富士山の石＞



れんがん

礫岩

堆積岩の仲間で、大きさが2mm以上の岩片が集まって固まったものです。酒匂川を流れて来るものはおもに足柄層群のものですが、削られやすいため下流ではあまり見られません。＜足柄山地の石＞



きようかいがん
凝灰岩

火山灰が堆積して固まった堆積岩の一つです。丹沢山地のものは海底の火山活動で噴出した火山灰が堆積したため、全体的に緑色がかっているのが特徴です。＜丹沢山地の石＞



きようかいかくれきがん
凝灰角礫岩

火山灰に大きさが32mm以上の軽石や火山岩片が混じっている堆積岩で、これらを盛んに噴出している火口の近くで堆積したことがうかがえます。酒匂川でみられるのは丹沢山地のもので、緑色をしています。＜丹沢山地の石＞



ホルンフェルス

堆積岩のうち、泥岩や砂岩が主に熱によって変化してできた変成岩です。黒っぽく粒がちみつでかたい岩石で、割れ口が鋭くとがるのでホルン(角)の名が付いています。＜丹沢山地の石＞

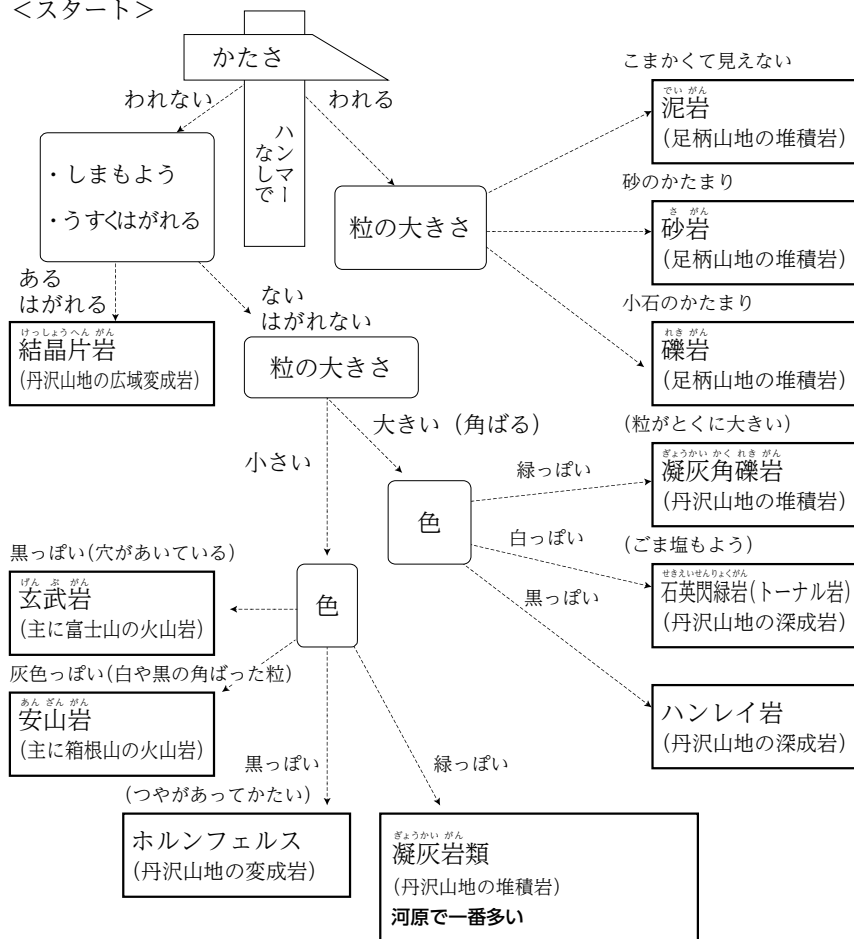


けっしょうへんがん
結晶片岩

地下で強い圧力を受けて変成した岩石です。結晶が一定方向にならんで見えます。丹沢山地には緑色片岩、カクセン岩と呼ばれる結晶片岩の仲間が見られます。＜丹沢山地の石＞

* 石の名前を調べよう (酒匂川の河原のおもな石) *

<スタート>



参考 火山岩：地下のマグマが噴出して急に冷えて固まった岩石
 深成岩：地下のマグマが地下でゆっくり冷えて固まった岩石
 堆積岩：土砂や火山灰などが積み重なってできた岩石
 変成岩：マグマの熱や圧力で性質が変わった岩石

河原の虫



トノサマバッタ（緑色型）



トノサマバッタ（茶色型）

河原の代表的なバッタ。近づくと大きく羽ばたいて逃げます。
色彩は変化が多く、まれに大発生し、農作物に害を与えます。



オンブバッタ

メスの上にオスがおんぶして
います。



セスジツユムシ

高い草の上でチチチ・ジーチ
ョジーチョと鳴きます。



イオウイロハシリグモ

草や低木の葉の上で、すばや
く獲物^{えもの}をつかまえます。



ネコハエトリグモ

常緑の葉の上でよく見かけま
す。ハエなどの獲物^{えもの}に、とびか
かってとらえます。



カバキコマチグモ

ススキやアシの葉を丸めて巣を作ります。かま^{いた}れると痛い。



ササグモ

草の間を素早く動きまわります。ジャンプすることもあります。



ウラナミシジミ (表)

羽を半開きにして止まっている様子をよく見かけます。幼虫はマメ科の植物を食べて育ちます。



ウラナミシジミ (裏)



アオモンイトトンボ

河原の草に止まっていることが多いです。

アジアイトトンボと間違えやすいのですが、見分け方は図のとおりです。

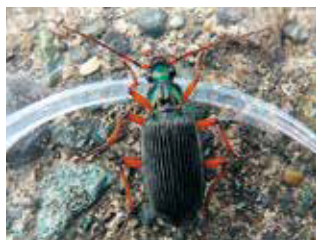


▲アジアイトトンボ



▼アオモンイトトンボ

すがた^{すがた}姿形は、似ていますが、小田原では、河原に住んでいるので、探^{さが}してみましょう。



ノグチアオゴミムシ

河原の石の下などにいます。
小さな虫などを食べます。



ウズラカメムシ

じっとしていると豆のよう
なかわいい虫です。イネ科の
草の穂によくいます。



ヒシバッタ

小さなバッタですが、よく
とびはねます。体を上から見
ると、ひし形をしています。



アオバアリガタハネカクシ

短い前羽の下に長い後ろ羽を折
りたたんでしまっておりま
す。強く握るとひふが赤くはれる液を出します。



スナゴミムシダマシの仲間

河原などの石の下や落ち葉
の下などにいます。くさった
植物を食べます。



エダヒゲナガハナノミ

水辺の草の葉の上にいるこ
とが多く、くしのような触角
が特徴です。

河原の鳥

川の中の小魚を餌にするカワセミや、水際の石についた水生昆虫などを餌にしているセキレイの仲間、岸辺を歩き回って餌を捜すシギやチドリの仲間、中州や岸のアシ原などで主に生活をするオオヨシキリ、さらにススキやチガヤの草原ではセッカが見られます。



カワセミ <留鳥>

背中はコバルトブルーでお腹はオレンジ色。水中に飛び込み、長い嘴で魚を捕らえます。ツイーと強く鳴いて一直線に水面すれすれを飛んでいきます。嘴の下が赤いのがメス、黒いのがオスです。



イソシギ <留鳥>

河原でもっとも多く見られるシギ。背中は薄茶色で胸から腹が白く肩の所も白いです。ピピピピピと速く鳴きながら翼を震わすようにしり水面すれすれに飛びます。お尻を上下に動かして歩きます。



イカルチドリ <留鳥>

河原の石と同じような目立たない色をしています。首の周りの黒帯は幅が広く、コチドリより脚や嘴が長めです。ピュイツ、ピュイツと歯切れよく鳴きます。河原に生息し、コチドリのように畑に現れることはあまりありません。



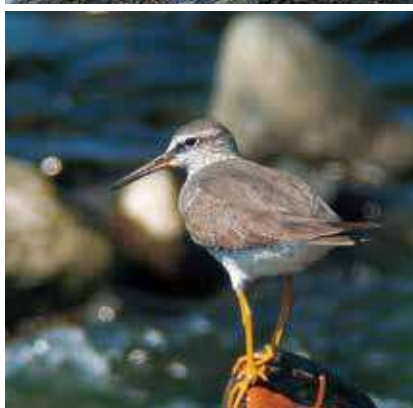
コチドリ <夏鳥>

イカルチドリよりもひと回り小さく、目の周りの黄色い輪が目立ちます。ピョップピョップ、ビューッビューッと鳴いたりします。砂地や荒地を好み、そこにくぼみ^かを作って、小石や枯れ草を使うだけの簡単な巣を作ります。



コサギ <留鳥>

白いサギの中で一番小さなサギです。嘴^{くちばし}は一年中黒く、脚^{あし}の指は黄色。繁殖期^{はんしよく}になると頭の後ろに2本の長い冠羽^{かんう}が生えてきます。餌をとるときは脚で水の中をかき混ぜて、出てきた魚^とを捕らえます。



キアシシギ <旅鳥>

全身灰色で足が黄色です。夏羽では胸に細かい縞模様^{しま}が見られます。ピューイ、ピューイと大きな声で鳴きながら水面の近くを飛んでいきます。岩の上でじっと休んでいる姿も見かけます。



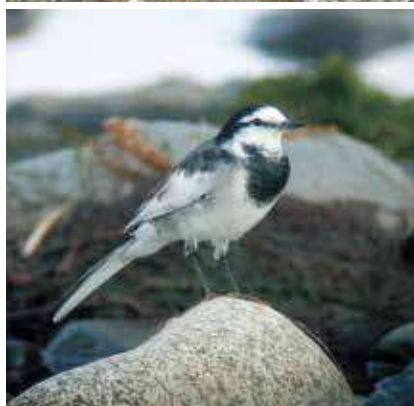
キセキレイ <留鳥>

尾が長く、お腹の黄色いスマートな鳥です。いつもお尻を上下に動かしています。チチン、チチンと強く鳴きながら飛びます。水のきれいな川の上流でよく見かけます。



セグロセキレイ <留鳥>

頭から尾にかけて黒く、顔の一部や腹・翼には白い部分があります。ジェツ、ジェツと濁った声で鳴き、波形に飛びます。お尻を上下に動かします。



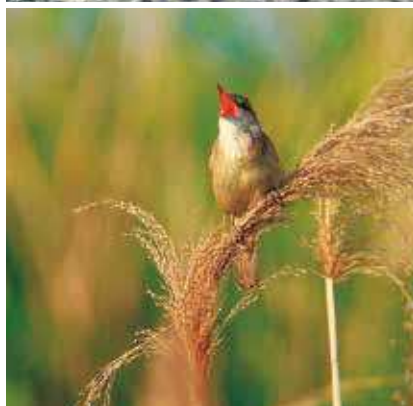
ハクセキレイ <留鳥>

セグロセキレイに似ていますが頭から尾にかけては灰色で、顔も目を通る線だけが黒です。チチッ、チチッと濁らずに鳴き、冬には集団で塹（ねぐら）をとります。川から離れた内陸部でも見られます。



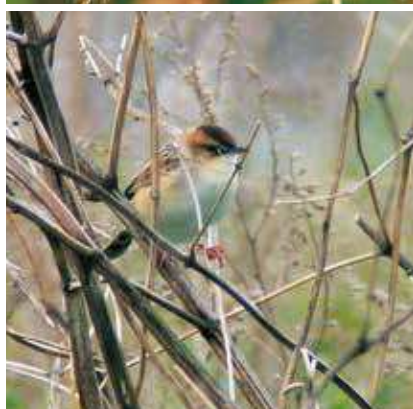
タヒバリ <冬鳥>

背中が茶色く、胸から腹にかけてしま模様があります。キセキレイやハクセキレイほど尾は長くありませんが、セキレイの仲間なのでお尻を上下に動かします。ピィッ、ピィッと鳴きます。田んぼで餌を捜す姿も見られます。



オオヨシキリ <夏鳥>

全身淡いオリーブ色で嘴は細く長いです。アシ原やその周囲の木で見られ、アシにつく昆虫やクモを食べます。ギョギョシ、ギョギョシ、ゲゲゲゲと複雑に鳴き、口の中の赤い色が目立ちます。



セッカ <留鳥>

薄茶色で背中に黒い斑^{はん}があり、ヒッヒッヒッと鳴きながら上昇しチャッチャッチャッと鳴きながら降りてきます。これは、オスがなわばりを宣言しているのです。そして、なわばりの中のチガヤなどにクモの糸などで巣を作ります。



ハシボソガラス <留鳥>

ハシボソガラスより小さく嘴も細め。ガァー、ガァーと濁った声で鳴き、家族を中心に生活をするグループもあります。電柱にも巣を作り、人間社会とのかかわりも大きいです。



オオジュリン <冬鳥>

上面は茶色で雨覆は赤味があり、下面にはたてじまがあります。河原のアシ原でよく見かけます。雄は目立つ草などにとまり、ゆっくりした声でさえずります。夏は北海道などに渡り、オスは頭が黒くなります。



ヒバリ <留鳥>

スズメのような色をしています。が、頭の後ろの羽が長く、緊張すると立てることもあります。春を告げる身近な野鳥として親しまれています。上空でさえずったり、丈の低い開けた草地で見かけたりします。酒匂川の河原でよく見られます。

双眼鏡の使い方

コラム



野鳥を観察する際、双眼鏡があると便利です。8倍程度の倍率のものが使いやすく、あまり重たくないものを選びましょう。また、野鳥を見る前に、双眼鏡の調節が必要です。

①ピント合わせ

やや遠くの目標物を決め、まず左眼でレンズをのぞきながらピントを合わせましょう。ピントは中央のリングを使って合わせます。



②視度調節

右眼と左眼の視力が違う場合があります。そのため、今度は右眼で見ながら、接眼レンズにある視度調節リングを動かして、ピントを合わせます。

③幅合わせ

双眼鏡の左右を持って角度を変え、両眼で見たときに視野が丸く一つの円になるように調節します。



川の中の水生生物

小田原を流れる酒匂川や早川・久野川は、流れも速く、水もきれいなので、水中や川底の石の下などにはたくさんの生き物がいます。どんな生き物が、どんな生活をしているのか観察しましょう。



久野川の観察地点



早川の観察ポイント



シマヨシノボリ

上流から河口まで広範囲に生息していて、体色の変異が多い。



ウグイ

川の中流部から河口部まで生息し、かなり大きくなります。



オイカワ

中流部の水路等に小さな群れを作って生活しています。



ドジョウ

小川やたんばに多く、餌を泥ごと食べてしまいます。



ヌマチチブ

中流部から河口部まで生息し、藻類や水生昆虫を食べます。



小田原市の魚

メダカ (ミナミメダカ)

最も小さい魚。酒匂川水系の農業用水路に生息地があります。



オオクラカケカワゲラの幼虫

上流部で生活する大型のカワゲラでこの仲間つめは爪が2本です。



チラカゲロウの幼虫

普通に見られるカゲロウの仲間つめで背中つめの白いすじが目印です。



エルモンヒラタカゲロウの幼虫

体は平たく、腹部に大きなエラあみがあって、尾は2本です。



シロタニガワカゲロウの幼虫

体は平たく、腹部のエラあみは小さくて、尾は3本です。



ヒゲナガカワトビケラの幼虫

川底の石の間に、粗雑な巣と網あみを作っています。(成虫はP 184)



ヒゲナガカワトビケラの網巢

エサをひっかける網と、その下の小石をつなげて作った巣です。

水質を判定しよう

コラム

水の汚れ具合	指 標 生 物
きれい	サワガニ、カゲロウ類、カワゲラ類、プラナリアなど
ややきれい	シロタニガワカゲロウ、シマトビケラ、ヒラタドロムシなど
きたない	ミズムシ、シマイシビル、フナ、オイカワなど
とてもきたない	ユスリカ、エラミミズ、サカマキガイなど

水生生物で川の水質が判定できます。

正しくは石についている藻類や化学的方法を使い、その総合的数値で判定されますが、水生生物だけでも十分目安になるので、調べてみましょう。



サワガニ (きれい)

純淡水産のカニで、一生を川で生活します。



ヒラタドロムシの幼虫 (ややきれい)

石の裏についていて、成虫はコガネ虫型で6月頃出現します。



ミズムシ (きたない)

汚れた水域の指標種で、卵を腹に抱いて保護します。



サカマキガイ (とてもきたない)

触角が細長く、貝殻の巻き方が他の貝と反対です。



ミズカマキリ

小さな魚などを捕らえて、その体液を吸い取ってしまいます。



タイコウチ

呼吸管を使って水中に静止し、小魚やオタマジャクシ等を捕食します。



ギンヤンマのヤゴ

トンボの幼虫のヤゴは肉食性で、エサの豊富な所にいます。



ハグロトンボのヤゴ

細長い体をくねらせて泳ぎ、3本の尾鰓で呼吸します。



アカテガニ

河口付近の湿った場所に住み、赤いすべすべのハサミが特徴。



ベンケイガニ

ハサミに顆粒があり、甲の肩の部分に切れ込みがあります。



クロベンケイガニ

河口部の草地などに穴を掘って住んでいます。



オオヒライソガニ

南方に多く、関東では少数です。酒匂川と早川で見られました。



テナガエビ

酒匂川下流部の流れのゆるやかな泥底どろぞこに生息しています。



ヌカエビ

酒匂川中流部の流れのゆるやかな所に多い小型のエビです。



アメリカザリガニ

1930年にアメリカから移入され、各地に広がった帰化種です。かいるようです。



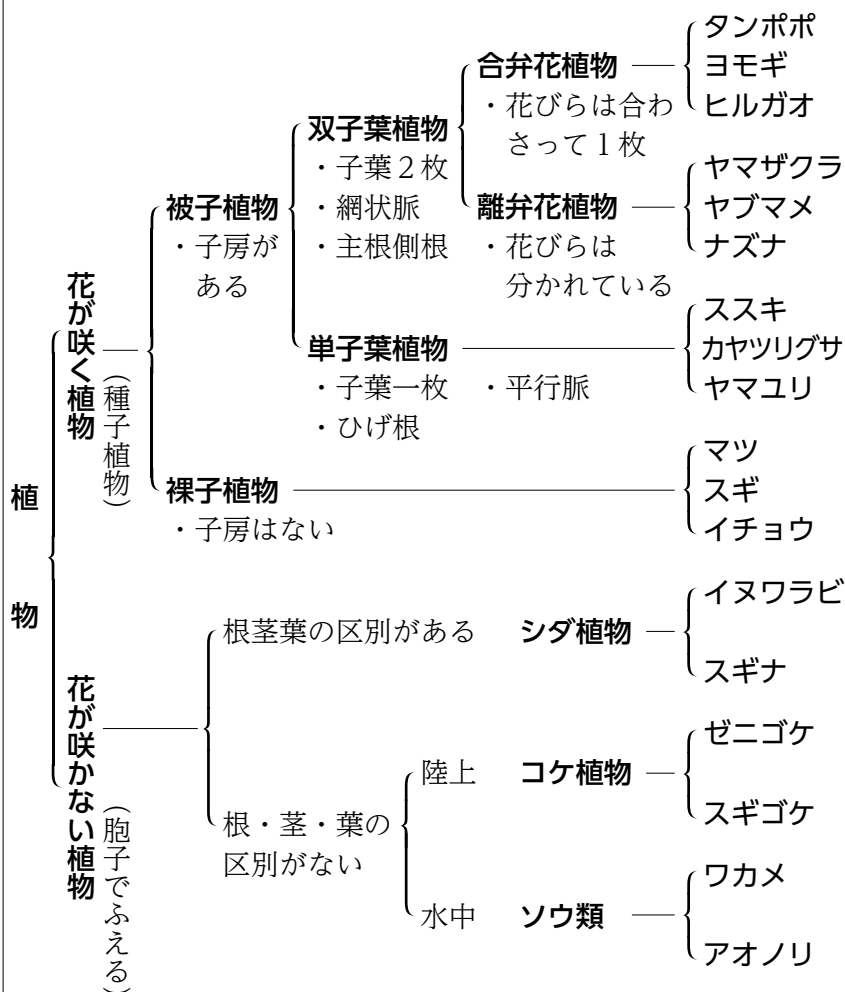
スッポン

カメの仲間は酒匂川に何種類

かんたんな植物の分類表

コラム

植物の研究をするとき、もとなる分類表です。
よく観察し、自分の力で仲間わけをしてみましょう。



取水堰^{ぜき}の鳥

酒匂川の飯泉取水堰は野鳥の宝庫です。ゆっくりと鳥を観察しに行きましょう。



取水堰までの野鳥観察コース



飯泉取水堰のようす

一年中水が豊富にあり、中洲には野鳥が繁殖できる環境があります。また、周囲には、休息をしたり、エネルギーを補給できるような場所や植物もあるので、ここでは生態系のバランスがうまく成り立っています。そのために、1年を通して多くの野鳥を観察することができます。



取水堰は人工的に川をせき止めているので常に水が豊富にあり、人間が近づくことができないので安心して鳥たちが休めます。また中州以外にも水草やアシ原などもあり、上流から流されてくる植物など餌になるものも多く、カモやカモメの仲間をはじめ、シギ・チドリ・サギの仲間、そしてトビなどの猛禽類も見ることができます。



アオサギ <留鳥>

首は白く長く、体は薄い灰色。翼を広げると羽の外側が黒く見え、グワァーとかギャーと、きこえる大きな声で鳴きます。高い木の上に巣をつくりま



ダイサギ <留鳥>

白いサギのなかでは一番大きく、首や脚も長いです。長い首がS字のように少し曲がっています。嘴は夏は黒く冬は黄色。脚の指は黒です。



ササゴイ <夏鳥>

ゴイサギよりも小さく細い体で、頭の後ろに長い羽があります。キュウとかピュウと鳴きながら飛び、昼間でも盛んに餌をとります。



ゴイサギ <留鳥>

ササゴイよりひと回り大きく、成鳥には頭の後ろに2本の白い羽があります。夜行性なので、夜空からグワァという大きな声が聞こえます。手前は幼鳥です。



ヒドリガモ <冬鳥>

首から上は栗色で額がクリーム色。ピューウ、ピューウとよく通る声で鳴きます。飯泉取水堰付近は県下で有数のヒドリガモの群れが観察できる場所です。



カルガモ <留鳥>

全身こげ茶色で顔が白っぽく見えます。お尻の近くの白い羽や、嘴の先端の黄色が目立ちます。夏には親子連れで泳いだり、餌を食べている姿を見かけます。



マガモ <冬鳥>

オスは頭全体が緑色で、首に白い輪があります。飛んでいる時でも嘴の黄色と尾の白がよく目立ちます。マガモとカルガモが近くを飛ぶと羽ばたく音が聞こえます。



ハシビロガモ <冬鳥>

嘴は大きくて幅が広いです。オスの頭は緑色で胸の白が目立ちます。首を伸ばして嘴を水面につけ、ジャブジャブと、こし取るようにして餌をとります。



オカヨシガモ <冬鳥>

オスの体は全体的に灰色で頭は茶色く嘴が黒いです。一見地味な色なので他のカモのメスのように見えます。オスのお尻近くの黒い羽が目立ちます。



オナガガモ <冬鳥>

名前の通り、尾の長いカモです。首が長く、体全体が大きく見えます。首の前側が白く、目の後ろ近くまで白い部分が続いています。



コガモ <冬鳥>

他のカモより小さく目のまわりの緑色とその周りの黄色が目立ちます。体の横の白い線とお尻の近くの黄色い羽も目立ちます。



カワアイサ <冬鳥>

緑色に光る黒い頭はオス、茶色い頭はメスです。エサを見つけると、水に潜って魚を捕らえます。その際、細長いくちばしに役に立ちます。



カワウ <留鳥>

カモよりもくちばしや首が長く、体全体も大きいです。水に潜って魚を捕らえます。潜った後に翼を広げて濡れた翼を乾かしている姿もよく見られます。



カンムリカイツブリ

<冬鳥>

くちばしと首が長く、名前のとおり、頭には黒いかんむりのような羽があります。川のほか、陸地に近い海でも見られることがあります。



カイツブリ <冬鳥>

体全体が丸く、とても小さいので、ふわっと水に浮いているように見えます。潜るのが上手で、一度潜ると思いがけない場所に出てきたりします。



オオバン <冬鳥>

全身真っ黒で嘴と額が白。酒匂川ではヒドリガモと競うように盛んに水に潜って水草をとる姿や陸上を歩く姿もよく見られます。狩川にも多く見られます。



バン <夏鳥>

黒い体に赤い額と嘴の先端の黄色がとても目立ちます。警戒心が強く岸沿いの草の陰などにいてなかなか水面に姿を現すことはありません。



ウミネコ <留鳥>

猫のようにミャーオと鳴きます。背の灰色は濃く、黄色い嘴の先端は赤と黒。成鳥で白い尾羽に黒い帯が出るのはウミネコだけです。他のカモメ達と違い、夏でも見ることが出来ます。



ユリカモメ <冬鳥>

他のカモメの仲間に比べると白くて小さいです。
くちばし 嘴と脚がオレンジ色で、
あし 目の後ろに黒い部分もあります。春、北へ帰る頃には頭全体が真っ黒になります。



オオセグロカモメ

<冬鳥>

くちばし 嘴の先端下に赤い斑点があります。セグロカモメとよく似ていますが、セグロカモメよりも翼の灰色が濃いです。小田原では特に春と秋の渡りの時期に多く見られます。



セグロカモメ <冬鳥>

春と秋の渡りのシーズンに多く見られる大型のカモメです。
くちばし 嘴の先端下には赤い斑点があり、
ほん 翼は薄い灰色をしています。
うす 幼鳥は全身茶色っぽいです。



ハヤブサ <留鳥>

背中^{しほ}は黒っぽい灰色で、腹には縞模様があります。鉄塔の上などで休んでいて、エサにねらいをつけると、急降下して捕らえます。その際のスピードは時速400km近くにもなります。



トビ <留鳥>

全身がこげ茶色の大きいタカの仲間です。他のタカと違い、尾を広げた時に先端が丸くなりません。ピーヒョロヒョロヒョロと鳴きます。なんでも食べる雑食性です。



ミサゴ <留鳥>

翼は濃い茶色で体の下側の白が目立ちます。主に魚^{えさ}を餌として食べます。上空から狙いをつけて急降下し鋭い爪で魚を捕らえ、魚をつかんだまま飛び去ります。

今年も会えるかな

—取水堰^{ぜき}に立ち寄る野鳥達—

コラム

飯泉取水堰^{ぜき}は、渡り鳥たちの中継地^{けい}でもあります。春や秋には普段は見ることの出来ないシギやチドリの仲間に偶然^{ぐぜん}出会うこともあります。また、年によって小田原^{おと}を訪れたり来なかったりする野鳥もいます。



ムナグロ <旅鳥>

顔から腹までが真っ黒なチドリの仲間。



ホシハジロ <冬鳥>

他のカモと違って、水にもぐってエサを捕る、頭が茶色いカモ。



キョウジョシギ <旅鳥>

よく目立つ模様から、京都の女性の着物にたとえられた京女シギ。



ハマシギ <旅鳥>

目的地である干潟^{ひがた}や砂浜では、数万羽に及ぶ大群を作ることもある。

市の鳥 コアジサシ

コラム

1995年に小田原市の鳥に選ばれました。毎年、酒匂川下流の中州に集団で営巣をしています。巣は地上にくぼみを作り、中に小石を敷いただけの簡単なもので、卵やヒナは周りの小石や砂利と同じ様な色をしていて、注意しないと見分けが付きません。

多くは4月下旬頃から渡ってきて卵を生み、ヒナを育て、8月下旬から9月初め頃に南に向かって渡って行きます。今までに、酒匂川のコアジサシがオーストラリアの近くのカロリン諸島まで渡って行っている事実が確認されています。

翼はやや灰色をしています但全身が白っぽく、頭の上から後ろにかけては黒いです。嘴は黄色く先端が黒い色をしています。名前のとおり空中で狙いを定めると、アジを刺すように嘴から一気に水中に飛び込んで餌を捕らえます。

